

1 母語でつながる

事例 3

5歳児 6月(在日6年)

「スペイン語が話題になっている」 ～友達に母語を知ってもらおうことのうれしさ～

こんなきっかけ みつけたよ！

スペイン語を母語とするA児は、日本語を聞いて理解することは何とかできるが、園で話す時は、母語を使うことはなく、日本語の単語をつないで伝えようとしている。また、保育者が意を汲んで代弁すると、うなずきや指差しなど、態度でも表すことができる。

A児の母親は、片言の日本語で会話ができ、言葉を探しながら、なんとか保育者とやり取りができる。

クラスの友達に、本児に対する理解と関心を深めてほしいと考えていたところ、A児の母語に触れる機会をダンス遊び（歌の歌詞）から見付けた。

こうしたよ！

6月、園の近くの文化会館で「マツケンサンバコンサート」が開かれ、園内でも話題になっていた。

ちょうどその頃、9月に園隣接の別の施設で開催されるフェスティバルに、実技発表という内容で年長児に参加依頼がきた。保育者は子供たちと出し物について相談をした。

様々な考えが出る中、保育者からも「マツケンサンバ、踊るのはどうかな！」と提案すると、「おもしろそう！いいね！」「手に何か持つことにする！？」など子供たちから意見が出た。ダンスの振り付けをして音楽に合わせて動く中で、「オーレッ」や「アミーゴ」などのタイミングで声を出すことになった。すると「アミーゴ」はどんな意味だろうという疑問が出てきた。

そこで保育者は「この言葉はスペイン語なんだけど、Aちゃんのお母さんはスペイン語を話せるから聞いてみるね」と、子供たちに伝えた。



翌日、「アミーゴは友達、女友達はアミーガって言うんだって」とA児の母親と話した内容を子供たちに伝え、「へ～っ」と興味をもって聞き入った。

その後、クラスの中で、その言葉を使ってみたくなり、友達同士「アミーゴ、アミーゴ！」と声を掛け合う姿が見られ、A児は「アミーガ！」と声を掛けられ、周りから注目された。

その日の降園時、友達の中でスペイン語が話題になっていることがうれしかったのだろうか、昇降口で保護者の迎えを待っている時に「スペイン語・・・」とA児が笑顔でつぶやいた。翌日から、「踊ろう！」と一番に声をあげるA児の姿が多く見られるようになった。

クラスでA児の母語に触れる機会をつくりました。友達に認めてもらえた経験から、自分から進んで行動する姿が見られるようになりました。



【マツケンサンバを踊るA児】



「アミーゴ！」
「踊ろう！」

ここが大事！

母語を大切にすることが、
外国籍等の子供の伸びようとする力を後押しします

外国籍等の子供の言葉に対する援助は、日本語に親しめるようにするばかりではなく、当該幼児の母語へ歩み寄る工夫も必要です。外国籍等の子供にとっては、自分のことを理解してもらえる喜びから、友達との関係づくりなど次の行動力につながっていくことも考えられます。また、クラスの子供たちにとっては多様な言語への関心や興味につながり、多様な文化に触れる機会にもなっています。

コラム 外国籍等の子供の母語が多様化しています

令和6年度に実施した「外国籍等の子供の在籍状況調査」の結果によると、本県の園に在籍する子供の母語が多様化しています。なかには、普段、耳にする機会が少ない言語もありますが、どのような言語でも、子供が安心して園生活を送れるよう、母語を大切にすることが必要です。



*幼児教育施設における
外国籍等の子供の在籍
状況調査まとめ